

## J R南武線連続立体交差事業に関する地域勉強会（第1回） 開催要旨

**開催日時** 平成28年6月23日（木） 13時00分～14時30分

**開催場所** 幸区役所4階 第2会議室

- 議 事**
- 1 地域勉強会の取組について
  - 2 沿線の現況・課題について
  - 3 踏切対策の必要性について

## 《開 会》

### 1 地域勉強会の取組について

#### [意見要旨]

地域勉強会 ○ 事務局から地域勉強会の取組について説明し、勉強会の設置目的、内容、スケジュール等についてご確認いただいた。

### 2 沿線の現況・課題について

#### [意見要旨]

地域勉強会 ○ 中原区は、小杉の開発が進んだことで若返ったのでしょうか。

事務局 ○ 開発が進み、武蔵小杉駅周辺に都市型住宅の整備が進んだことや交通利便性が評価されて若い世代が流入していることも要因としてあるものと考えています。

地域勉強会 ○ 踏切の渋滞や人の流れがとてもすごい。

地域勉強会 ○ J R南武線の連続立体交差事業のI期区間（武蔵小杉駅～第三京浜高架下）は、なぜ今回の検討区間より先に事業を行ったのか。

事務局 ○ 南武線のI期区間は昭和50年に都市計画決定しています。過去の資料を見ても、今回の区間よりI期区間を先に事業着手した明確な理由は確認できませんでしたが、当時の踏切状況や交通状況等を勘案して判断したと推測しています。

地域勉強会 ○ 過去に請願もさせていただいているが、できるだけ早く完成させるようお願いしたい。せっかく都市計画決定をされて目標ができたところで、我々みんな死んじゃってから完成するのではないかと。ただ、せっかくこのような勉強会をして頂いたから、用地取得やいろいろな協力をしていかなければならない。そんなこともお互い問題点を共有して、しっかりとした体制ができるような実があるものができたらいいなど。

地域勉強会 ○ 塚越踏切の事故は1回だけでない。平常時はまだいいが、災害発生時、踏切は閉まりっぱなしになってしまう。いつくるか分からない災害への備えとしても、早く事業を行って欲しい。

地域勉強会 ○ 鹿島田は高齢化率が高く、避難場所も平間小学校で鉄道を跨いで反対側に行かなければならず、大変である。平間駅前踏切でもベビーカーでの死亡事故があり、早急に安全性を高める必要がある。

地域勉強会 ○ 踏切では多く事故も起こっており、朝夕のピークにはほとんど踏切が開かない。対策を講じる時期が遅すぎる、今のご時世、国の予算をもらうことも厳しいとは思いますが、早く事業を行って欲しい。

地域勉強会 ○ 川崎市から目標として示されている平成30年の都市計画決定後から事業を進めても、完成までかなりの長期間を要することにはなるが、この連続立体交差化については、進捗が遅いと言われようが、少しずつでも進めて行かなければならない事業である。中原区の完成済区間を見ても、高架化は大変効果が大きい事業

であるので、平成30年と言わずに、もっと早く都市計画決定して、事業化してほしい。

- 地域勉強会 ○ 川崎縦貫鉄道については、川崎市のホームページで公表しているのに、南武線の連立については公表されていないようである。また、この事業について国から補助はもらえるのか。
- 事務局 ○ お配りしたパンフレットの裏表紙にQRコードを入れておりますが、南武線連続立体交差事業の取組内容を川崎市のHPにも公表しています。国からは、平成26～27年の事業調査時に補助金をいただいています。
- 地域勉強会 ○ 南武線の連続立体交差化の着手は、京急大師線の連続立体交差事業の進捗次第なのか。
- 事務局 ○ 京急大師線の連続立体交差事業は、小島新田から東門前間の主に産業道路の踏切を除却するため、平成30年度の線路切り替えと平成31年度の完成を目指して進めており、その先の鈴木町までの事業推進を考えています。JR南武線の連続立体交差化も必要な事業であるため、どちらも進めていきたいと考えています。
- 地域勉強会 ○ 少子高齢化が進んでいる現在、今の予定よりも事業化の時期が遅れると、人口減少が進むため、踏切を除却する意味が無くなってしまう。
- 地域勉強会 ○ その想定は、極端すぎる考え方ではないか。
- 地域勉強会 ○ 矢向駅周辺の横浜市との話し合いは継続しているのか。具体的な費用負担などについてはどのような話し合いをしているのか。
- 事務局 ○ 具体的な費用負担についての協議はしていないが、横浜市とは継続して話し合いを行っています。
- 地域勉強会 ○ 横浜市全体からみると、矢向駅周辺は端のため、事業の優先度が低く設定されてしまっているのが、現状である。
- 地域勉強会 ○ 連続立体交差化の事業主体は川崎市なのか。東急の高架化は事業が早かった。
- 事務局 ○ 連続立体交差化の事業主体は川崎市であり、(複々線事業など)線路を増やす事業については、各鉄道事業者が事業主体となります。
- 地域勉強会 ○ 東急や京急など私鉄は事業のスピードが速い。これに比べて、JRはスピードが遅いと感じるので、川崎市からもJRに対してもっとプッシュしてほしい。JRもいろいろとプロジェクトを持っていますからね。
- 地域勉強会 ○ この勉強会にはJRは入れないのか。
- 事務局 ○ まずは、地域の皆様と意見交換を重ねたうえで、正式に計画を決めてからJRにもご協力いただこうと考えています。
- 地域勉強会 ○ この勉強会を行うことは良いことだと思うが、勉強会の内容を持ち帰って、他の人にも説明しなければならないので、いつからどのような計画で事業を行うのかははっきりしてもらいたい。他の人に説明が出来なければ、勉強会を行う意味が無くなってしまいますので、決まったことは、きちんとやってもらいたい。
- 地域勉強会 ○ 昨年、まちづくり公社が行った「まちづくり連絡会」にも参加した。その中では地下化すべきとの要望が多かったはずだが、その内容も行政の中で共有して、今回の勉強会を行っているのか。なぜこの場にまちづくり局は参加していないのか。川崎市のなかで連携がとれていないのではないのか。

- 事務局 ○ まちづくり局とは情報共有しています。今回は、皆様と地域の現況課題について意見交換や情報共有させていただき、第2回以降の勉強会の「まちづくり関係の議題」からまちづくり局職員が出席する予定です。
- 地域勉強会 ○ 連続立体交差化が必要であることは皆分かっているのだから、高架化や地下化の比較検討の資料がないと勉強会にならないのではないか。
- 事務局 ○ いきなり本題に入るやり方もあるとは思いますが、初めてお聞きになる方にも分かりやすく丁寧に進めるため、順を追って説明する予定としています。次回の勉強会は、連続立体交差化以外も含めた踏切対策の手法について意見交換し、第3回の勉強会で、連続立体交差化の構造・工法の比較検討結果をお示ししたいと考えています。
- 地域勉強会 ○ 連続立体交差化には完成まで長期間を要するので、連続立体交差化の検討と併せて、一部区間だけで効果を出す手法なども併せて検討していくべきである。
- 事務局 ○ 次回の勉強会では、連続立体交差化以外の踏切対策についても意見交換させていただきます。連続立体交差化を見据えながら、この沿線にあった短期的な踏切対策についても併せて検討します。30年先を見据えたよいまちづくりに資する事業にしていきたいと考えています。初めてお聞きになる方にも分かりやすいように、順を追いながら、ご説明させていただきたいと考えています。ご意見も踏まえ、説明資料を更に工夫していきます。
- 地域勉強会 ○ 連続立体交差事業は、予算規模も大きい事業だが、国や県など予算についてどのように考えているのか。
- 事務局 ○ 国の補助金をいただきながら、残りは川崎市の負担となります。JRからも一部負担をしていただきます。
- 地域勉強会 ○ 国はもとより、他の路線を多く抱えているJRの協力をどう獲得していくかが重要であり、連携を図って事業を進めて欲しい。
- 地域勉強会 ○ 昨年、測量の説明会もあったが、都市計画道路の事業も含めて、この事業全体で各町内会に、何人程度の用地買収の影響がでるのか示してほしい。また、この事業の地権者への事業の周知についてはどのように考えているのか。
- 事務局 ○ 今後の勉強会で予定している連続立体交差化の構造工法の比較検討の中で、用地買収の影響度合いについて説明させていただきます。また、地権者の皆様への周知については、まずはこの地域勉強会を発足したことの公表から始めてまいります。  
予定している4回の勉強会が終了した後、沿線の皆様を対象とした説明会を開催します。
- 地域勉強会 ○ 川崎縦貫高速鉄道の取組はどのような状況なのか。
- 事務局 ○ 川崎縦貫高速鉄道は、京急大師線との相互接続を過去に検討していたが、現在、事業休止している状況です。
- 地域勉強会 ○ 川崎縦貫高速鉄道の休止というのは、もう中止と知っているのと同じである。

### 3 踏切対策の必要性について

#### [意見要旨]

- 地域勉強会 ○ 昨年の測量説明会に参加した知り合いから、この連続立体交差化計画は、昭和20年代から話があったと聞いた。今まで何をしていたのか疑問に思ってしまうが、今からでも早く進めて行かなければならない事業であることは理解できた。
- 地域勉強会 ○ 実際に立ち退く可能性のある沿線の方々は、今後の生活がどうなるのか不安であるので、きちんとした計画をもって、丁寧に説明して事業を進めて欲しい。
- 地域勉強会 ○ 私たちがこの計画に関わっていくうえで、学校区が踏切を跨いでいる小学校もあるが、今は線路に関係なく学区も設定されており、その逆もあるのではないかと。線路があるがゆえに学区も分断されている。踏切がなくなった後の学区の考え方についても今後検討していかなければならない。  
小学校は避難場所に指定されているが、遠い場所から避難しなければならない地区もあり、避難場所の指定の考え方も、今後の計画のなかで検討する必要があると考えており、そのような課題意識を持ってこの勉強会に参加したい。
- 地域勉強会 ○ 第3回勉強会の検討内容として、「連続立体交差化の手法について」とあるが、この中で地下化した場合の比較検討結果が示されるのか。
- 事務局 ○ 第3回勉強会の「連続立体交差化の手法について」の中で、地下化した場合の考えられる構造形式についても説明させていただく予定である。川崎市としても予算の問題や事業効果との兼ね合いも含めて、わかりやすく説明させていただきます。
- 地域勉強会 ○ 地下化した場合の方が、工事も早くできて効果も高いことも考慮にいれて、検討してほしい。
- 事務局 ○ 費用便益比をお示しします。この区間では、どのような構造工法でも、用地の取得が必要となります。現況課題についても、本日ご説明した内容だけでなく、地震や水害の発生への備えや事業目的の達成度など、様々な観点から総合的に決めていくことになるため、この勉強会の中で共有できるよう分かりやすい資料作成に努めます。
- 地域勉強会 ○ 連続立体交差化の構造形式は、まだ決まっていないのか。
- 事務局 ○ 連続立体交差化する場合の構造形式については、決定していません。皆様と意見交換を行いながら、決定していきたいと考えています。
- 地域勉強会 ○ 今日の勉強会で、構造形式を比較した内容が明らかになると思っていたが、現況・課題の説明だけで物足りなさが残った。
- 事務局 ○ この勉強会では、連立化以外の踏切対策も含めて、順を追って皆様と理解を深めながら、検討していきたいと考えております。連続立体交差化の手法については第3回の勉強会で説明を予定しています。
- 地域勉強会 ○ 踏切の土地は、川崎市の所有なのか、JRの所有なのか。
- 地域勉強会 ○ 道路があるところに、後から鉄道ができた場合は、川崎市の土地であることが多く、先に鉄道があった部分はJRの土地であることが多いのではないかと推測

しています。

- 事務局 ○ 川崎市の土地をJRに通らせてあげているのであれば、土地所有者としてJRにどいてくださいと言えいいのではないか。
- 地域勉強会 ○ 連続立体交差事業は、踏切除却を目的とした道路事業であり、立体化により、鉄道事業者が現在保有する鉄道施設を補償するという考え方になっています。
- 地域勉強会 ○ 次回以降の勉強会から、鶴見区の矢向駅周辺の横浜市民も勉強会に入れた方が良いのではないか。
- 事務局 ○ ご意見について、横浜市とも協議させていただき対応を検討いたします。

## 《閉 会》

- 本日、3つの議事に係る内容について、事務局より説明し、JR南武線（尻手駅～武蔵小杉駅間）の踏切対策の必要性についてご理解いただきました。  
次回、第2回の開催は7月22日（金）19：00～  
中原区役所5階 501会議室にて開催。